

# びわこ水域における釣り人の関与と環境保全行動 —バスフィッシャーに着目して—

岡崎 敬典 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)  
指導教員 山本 達三

キーワード：消費者関与, バス釣り, WTP(支払意思額)

## 1. 緒言

国内・海外ともに釣り人の関与に関する研究は乏しく、わが国では坂口・菊池 (2002) の平成 13 年度忠類川サケ・マス有効利用調査に参加した釣穫調査協力者を対象とした研究のみである。坂口・菊池 (1998, 2001, 2002) は、レジャー活動を事例に日本語版関与尺度の開発を行っており、リスクの可能性、重要性の 2 項目 (場所に対するリスク) が含まれている。釣り人に関する研究は少なからず蓄積されてきたが、バスフィッシャーの関与に着目した研究は見当たらない。そこで本研究はバスフィッシャーの関与測定にはリスクの項目を含むことが適していると考え、日本語版 IP スケールを用いて、バスフィッシャーの消費者心理 (特に消費者関与) 及び消費行動を明らかにし、びわ湖の環境を守る事業に対する WTP (支払意思額)、環境保全行動との関連について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

- ・調査対象：びわ湖付近で釣りをしている、釣りをしたことがあるバスフィッシャーを対象とした。回収数は陸釣り 150 票、ボート釣り 150 票、合計 300 票である。
- ・調査項目：基本属性 (郵便番号、年間派生費用など)、活動に関する関与 [日本語版 IP (坂口・菊池, 2002) 5 因子 25 項目]、環境保全行動 (4 因子 16 項目)、WTP (支払意思額) を用いた。

## 3. 結果および考察

バスフィッシャーの消費者行動を把握するため、ボートと陸の各変数の比較を行った。その結果、「違法行為への配慮」でボートより陸釣りの方が高い平均ランクを示し、有意な差が認められた (表 1)。結果から、ボートで釣りをする場合は、駐車場が完備されてい

ることが多く、違法行為を行うことが少ないからと考えられる。陸釣りをする場合は、近年釣り禁止区域が増えており、駐車場が設備されていないことから、違法行為をすることになりやすいと考えられる。

表 1. ボートと陸の平均値と SD 及び Mann-Whitney の U 検定結果

		M±SD	平均ランク	有意確率	効果量
愛着	ボート (n=150)	4.75±0.41	186.03	.000	.44 (中)
	陸 (n=150)	4.12±0.82	114.21		
保全行動	ボート (n=150)	4.51±0.58	179.34	.000	.34 (中)
	陸 (n=150)	4.08±0.69	120.85		
環境意識	ボート (n=150)	4.76±0.41	178.61	.000	.35 (中)
	陸 (n=150)	4.44±0.59	121.58		
行動評価	ボート (n=150)	2.87±1.16	138.56	.021	.13 (小)
	陸 (n=150)	3.18±0.94	161.36		
違法行為への配慮	ボート (n=150)	1.32±0.86	127.51	.000	.31 (中)
	陸 (n=150)	1.92±1.21	172.34		

高関与群と低関与群の 2 群に分類し、重回帰分析を行なった。高関与群では「リスクの重要性」が「保全行動」と「環境意識」に対して、正の影響を与えていた。同項目で低関与群では負の影響を与えていた。結果から、高関与群は釣り場の環境に左右されず、びわ湖の自然を大切に、ゴミ拾いなど進んで行う傾向にあると考えられる。

支払意思額では、ボートと陸の 2 群では有意な差が認められなかったが、関与高低では高関与群の方が高い平均値・平均ランクを示し、有意な差が認められた。

表 2. 低関与群と高関与群における関与と環境保全行動の重回帰分析

低関与群/高関与群	愛着	保全行動	環境意識	行動評価	
(R <sup>2</sup> )	.225***/.219***	.117***/.085***	.056***/.116***	.131***/.065**	
関与	魅力	.463***/.324***	(.064) / .161*	(.136) / .238**	(.012) / (-.041)
	記号性	(.147) / .242**	(.161) / .208**	(.160) / .169*	(-.097) / -.223**
	リスクの重要性	(-.116) / (.089)	-.348***/.271***	-.258***/.239**	.343***/(-.113)
	リスクの可能性	(.071) / (-.078)	(-.051) / (-.056)	(-.023) / (-.148)	(.076) / (.008)

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

() の数値はステップワイズ法で除外された項目である

## [参考文献]

坂口俊哉, 菊池秀夫. (2002) 日本語版 IP (Involvement Profile) の検討: レジャーフィッシングへの適用, スポーツ産業学研究, Vol. 12, No. 2: 47-61.